

「好きなものなら食べられる」



さいたま市浦和区仲町の玉蔵院しだれ桜。2013.3.22 日昼休み。午後5時で閉門との事。まだ明るいが・・・

2013.3.16

桜の季節が又巡ってきた。

母のこの頃は、ゆったりと坂を降りている、という感じが続く。

この坂が、いつ途切れるのか、覚悟はしているのだが、毎週、今日は又会えたね、よかった、という日々だ。2月に91歳を過ぎた。

いつもは昼の食事が済んだ頃を見計らって行くのだが、少し早めに行ってみた。

介護士さんが、真ん中に座り、母ともう一人の方に、昼食を食べさせている。右、左、右、左、、、忙しそうだ。

「朝は召しあがるんですが、昼と夜はご自分では食べられなくて」との事、私が代わって食べさせることにする。一応スプーンからのみこんではくれるのだが、いかにも嫌そうに、顔をしかめながら食べている。

母は嚥下障害がかなり重度なので、ドロドロのヨーグルト状の食事だ。

白オレンジ色のが、鮭の再京焼、茶色のが牛蒡煮、緑色っぽいのはキャベツとセロリのサラダ、透明なゼリーはお吸い物、白いヤマト糊そのもの、がお粥らしい。

まあ、形状は止む無しではあるのだが、しかしこの顔のしかめ様はどうなんだろう。

美味しくないので？とつい大声で聞いてしまう。

尤も、近頃会話はほぼ成り立たなくなっているから、「そう、まずくて食べられないのよ」とかの答えは出てはこない。ひたすら続くしかめっ面だ。

「これはシャケだって。血や肉になるんだよ」「これはサラダよ。野菜も大事だね」などと聞いていない母に声を掛けながら食べさせる。

「あっ、今日はいい天気よ。これ食べたら、後で散歩に行こうか？」と言うと、急に表情が変わって「うん、行こッ！」との答えがすぐに返ってきた。

徒歩 10 分位で行ける芝プリンスホテルの庭には、種類の違う桜が何本か植えられている。丁度、江戸彼岸桜が殆ど満開だった。

花の中央のピンク色が濃く、華やかな花々の中から、メジロが忙しく出入りする。

よかった、今年もお花見一緒にできたわね、暖かいし、空の色もほんとにきれい……妹と感慨深く車椅子の母を眺める。

ホテルのカフェで、バニラアイスクリームを注文したところ、ダブルのアイスがきた。

母は、自分でスプーンをさっさと使って、美味しい、と言いながらどんどん食べる。

ちょっと待って、少し崩すから、と右と左から私達がアイスを食べやすいように切ろうとするのだが、母の食べるスピードに追いつかない。

自分の分を食べ終わると、加えて私たちのケーキもせっせと食べた。

「なんだ、好きなものなら、ちゃんと自分で食べられるんじゃないの。」

こういう皮肉っぽい言い回しは、当然母には通じていない。

糖分が少し心配で、今日の施設のおやつは止めてもらうことにする。

昔からいつも、体調が悪い、食欲がない、と言っていた母だった。

案じて父が、筋子とかタラコとかチーズとか、家の家計には釣り合わない、当時としては高価なものをよく買ってきた。

通常、母は怒った。こんな高い、贅沢なものを買ってくるなんて！

子ども心に、「ありがとう、は言わないんだ」とか、「怒るなら食べなきゃ良いのに」と思ったが、母は懲りずにいつも、何で又こんなもの買ってきたの！とヒステリックに怒った。

父も又、懲りずに買ってきた。

母は、怒りながらも品物は自分でしっかりと確保した。

我が家では、父の特別メニューはなかったが、母だけが食べる「美味しいもの」は、存在した。子供に少しだけ分け、殆どは母が一人でちびちびと食べた。

しかたなく食べている風を装っていたが、美味しくて人にあげたくなかったのに決まっている。

現在の母は、素直に美味しい、と言う。

誰かにどう思われなくては、という複雑な回線がなくなって、すっぱりと悩み事から解放されている。

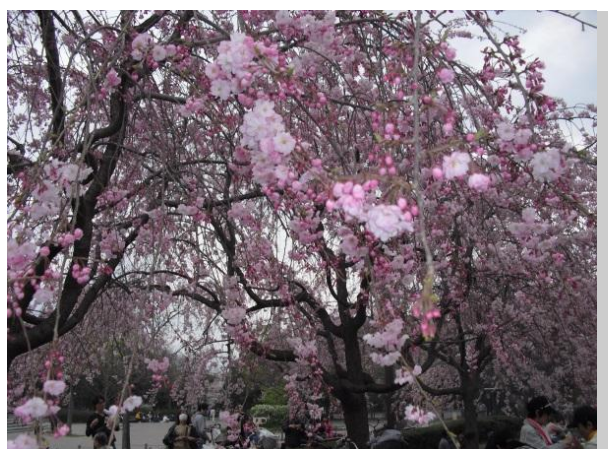
呆けるのも悪くない、そう思う。

好きなものなら、食べられるのね、お天気が良い日に又来ようね。

帰り道、車椅子を押しながら母の背中にもう一度言ってみた。2013.3.16.

小名木川の橋をいくつも渡って、春の掘割ウォーキングに行ってきました。

江東区横十間川親水公園で。2013.3.23 日写す。



江東区立木場公園の枝垂れ櫻。



江東区深川新大橋近くのさくら。